

Akamai Guardicore Segmentation で AWS のワークロードを保護

企業は Amazon Web Services (AWS) の PaaS リソースの活用を続けており、多くの企業が重要なワークロードをパブリッククラウドに移行しています。これらの企業は、コストの削減、スケーラビリティとパフォーマンスの向上、ビジネスのアジリティの向上などのメリットを享受しています。しかし、クラウドへの移行に伴い、セキュリティに関する喫緊の懸念事項も浮上しています。

新しいツールセット

クラウド環境で運用するためには、まったく新しい一連のセキュリティ制御が必要です。これらの制御は、クラウド内の AWS、オンプレミスの AWS アウトポスト、そしてハイブリッドクラウドのワークロードをサポートする必要があります。既存のクラウドセキュリティグループは、AWS クラウド内の資産やリソースに対しては十分かもしれませんが、これらの制御は他の環境に配置されている関連資産やリソースを保護するためには拡大適用されません。つまり、チームは複数のセキュリティツールを管理する必要があるため、潜在的なセキュリティギャップが生じる可能性があります。

新しいセキュリティ運用モデル

AWS の責任共有モデルの一部として、クラウドまたはオンプレミスで AWS リソースを使用すると、Amazon は AWS クラウドで提供されるすべてのサービスを実行するインフラの保護のみに責任を負うこととなります。それらのインスタンスにインストールされたアプリケーションソフトウェアまたはユーティリティ、およびセキュリティグループの設定は、ユーザーの責任となります。これには、垂直方向と水平方向の両方のトラフィックの保護と監視、および侵害の検知、防止、応答のための制御の展開も含まれます。

インフラの可視性と制御の低下

AWS 環境の運用面での魅力を高めるのと同じ利点が、複数の AWS アカウント、仮想プライベートクラウド (VPC)、ネットワークセキュリティグループ、さらには組織のより広範なハイブリッドエコシステムにまたがる資産の制御と可視性の低下につながる可能性もあります。

主なメリット

-  PaaS リソースを含む AWS のワークロードを保護するエンドツーエンドのソリューションにより、DevOps チームとセキュリティチームは、データセンターのセキュリティ管理ではなく、コアタスクに貴重なリソースを集中させることができます
-  AWS を超える厳格なマイクロセグメンテーションポリシーを管理および適用し、オンプレミスで運用されている資産やパブリッククラウド全体にも適用します
-  ポリシー違反を確実に検知し、リアルタイムで応答します
-  レピュテーション分析やリアルタイムの動的ディセプションなど、複数の侵入検知および防止方法を使用することで、潜在的な侵害から環境を保護します

